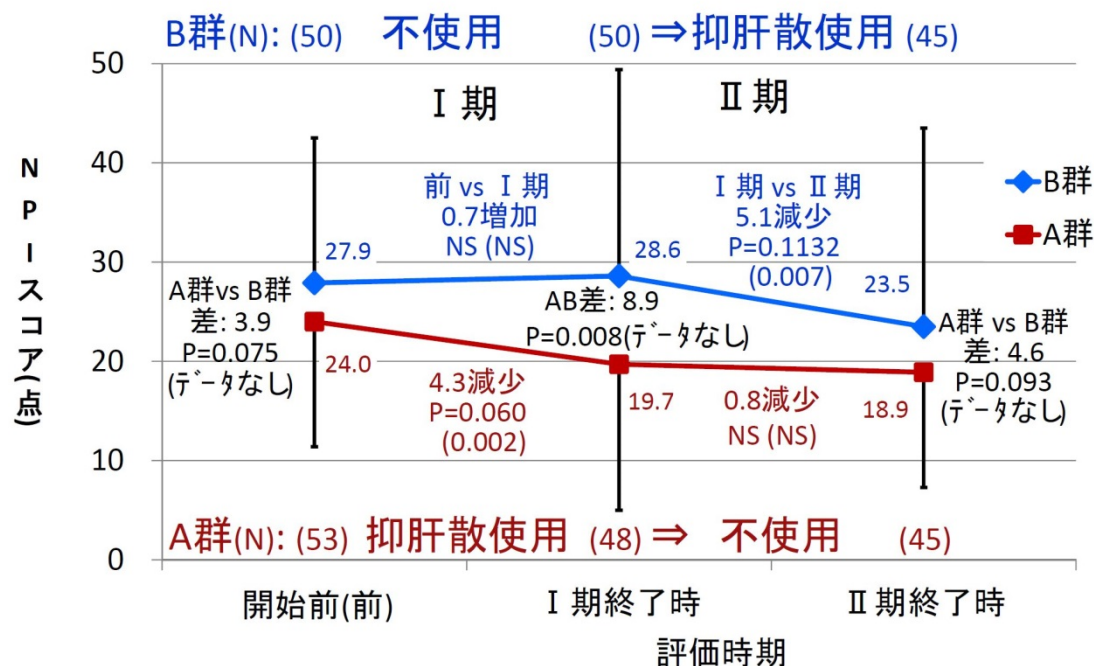


抑肝散

図： Mizukami らの試験結果のまとめ



グラフの点と縦棒: NPI スコアの平均値と±標準偏差(B 群は上限値、A 群は下限値)。

P 値は、N 数、平均値、標準偏差を用いた対応のない t 検定 (片側)の結果。

()内は Mizukami らが報告した Wilcoxon 法による解析結果。

A 群の I 期終了時(19.7)は試験前(24.0)に比し 4.3 点改善。Mizukami らは Wilcoxon 法で有意に減少した(p=0.002)とするが、対応のない t 検定の結果(片側検定)では、p=0.060。有意水準を 0.05 とすると有意に近いが有意でない。試験開始前の A 群と B 群の比較では A 群 24.0、B 群 27.9(p=0.075)であり有意に近いが、Wilcoxon 法による p 値は示されていない。